



代表取締役会長兼社長

川崎博也

複合経営による
成長戦略を深化させ、
当社グループ独自の
付加価値をさらに高め、
将来の飛躍に向けて邁進します。

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当上半期の業績と配当について

当社グループの上半期の連結業績は、後述の「業績のご報告」でご説明しておりますとおり、素材系事業での原料価格下落に起因する販売価格や在庫評価影響の悪化、加古川製鉄所の高炉改修の一時費用計上などのため、減収減益となりました。中間配当につきましては、こうした業績や資金需要、財務体質なども考慮した結果、見送らせていただきました。株主の皆様のご期待に沿えず申し訳ございませんが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後の取組みについて

当社グループは、2013年度より、鉄鋼事業の収益力強化を含む「経営基盤の再構築」と素材系事業、機械系事業、電力事業の事業拡大などの「安定と成長への布石」としての施策に取り組んでまいりましたが、この方向性に基づく成長戦略の一層の深化が、収益力と事業基盤の強化につながるとの認識のもと、本年4月に「2016～2020年度グループ中期経営計画」を策定し、それに基づく施策の着実な遂行に取り組んでおります。

まず、素材系事業では、鉄鋼事業の構造改革の完遂に向け、本年9月に加古川製鉄所の高炉改修工事を開始しました。また、輸送機の軽量化に様々な側面から応える取組みも行なっており、例えば、自動車メーカーの燃費・環境性能向上等のニーズに応えるため、鉄・アルミ・溶接技術を駆使した、独自のマルチマテリアル化技術(各異素材の優れた特性を活かしつつ併用する技術)の開発に取り組んでおります。その他、本年8月には、需要拡大が見込まれる北米自動車市場の軽量化ニーズに応えるため、北米の自動車用アル

ミ押出・加工品の生産・販売拠点の建設を始めました。

機械系事業では、近年のプラント大型化の進展により急成長中の大型ターボ圧縮機市場に参入するために世界最大級の試運転設備を建設中であり、また、喫緊の課題である建設機械事業の収益力強化については、需要に応じたグローバルな生産体制の見直しなどの構造改革を進めております。

電力事業については、2つの発電所建設プロジェクトを着実に推進しており、真岡のプロジェクトでは、6月より本格的な建設工事を開始しております。

コンプライアンスについて

このような取組みを実施するためには、コンプライアンスの遵守が大前提となりますが、本年6月、当社関連会社である神鋼鋼線工業株式会社の子会社において、日本工業規格(JIS)上の引張強度に満たない製品のデータを改ざんし、出荷していたことが判明いたしました。当社グループ全体でのコンプライアンスの徹底を図ってきた中、このような事実が判明したことは、多くの方の信頼を損なうものであり、誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

現在、再発防止に向け、当社グループ全体で品質コンプライアンス体制の再構築を進めており、一丸となって皆様からの信頼回復に努めてまいります。

国内外の経済環境の先行きは、依然不透明な状況ですが、当社グループは、安全・コンプライアンスの徹底、社会との共生を大前提としながら、成長戦略を着実に進めることで、独自の付加価値向上に取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年11月